



2月25日から26日にかけ、「ひやま」の観光や特産品をPRする「食・観光フェア」が東京都大田区で開催され、檜山管内7町が連携して物産販売などを行いました。会場となつたJR蒲田駅前の東急プラザでは、1階の広場と7階フロアで特産品などが販売され、本町からは「あわびの酒蒸し」や「ひらめのフライ」といった料理のほか、「根ほつけ」や「鮭の飯寿司」、「ふつくりんご」など、海の幸と山の幸を豊富に取り揃えたラインナップとなりました。東京の方々にとつて、北海道は知つていても、檜山とそれを構成する7町の知名度はまだまだ低いのが実情ですが、関係者にお話を伺うと「フェアでの各町特産品の売れ行きが好調だったことから、今後はさらに知名度アップに努め、販売を拡大していきたい」と話します。味しい特産品を手にとつてもらいたい、各町の観光スポットを訪れてもらえるよう、こうしたPR活動を継続して実施していくとのことでした。

【PR】
「ひやま」をPR!
檜山管内7町が連携、

一足早く蝶が舞いました。羽化したのは、色鮮やかな羽を持つアゲハ蝶で、園児たちが昨年秋の草むしりで捕まえ、その頃から草を与えたり、暖かい部屋に虫かごを置くなど、冬の寒さで死なないように大事に育ててきました。園児たちは、年が明けて青虫がエサを食べなくなり、ほとんど動かなくなつていたことから、春を前に死んでしまうのではないかと心配していたのですが、無事羽化したアゲハ蝶の姿を見て、「羽がキレイ!」「いつ飛ぶの?」と嬉しさもひとしおの様子でした。

園児たちの思い通り
羽化を迎えたアゲハ蝶



カルタ制作には、上ノ国観光ガイド協会（岩田靖会長）などが協力し、生徒たちともに知恵を絞り、最終的には来年度中の完成を目指して、作業が進められる予定です。また、直接生徒の指導にあたっている五十嵐先生にお話を伺うと、「最近の生徒たちは小中学校で地域の歴史に関する教育を受け、知識を持つています。高校では、そこから一歩進み、それらを活かして、何かを生み出す行動力と思考力を身に着けてほしい」と思ふことで、生徒たちはその思いに応えるように、カルタ制作に邁進しています。

上ノ国カルタ
上高生が製作中

こうして全道で過疎地域の高校入学者が減少を続けるなか、上ノ国高校は年々入学者を増やし、この日は昨年を上回る38名が合格し、春から上ノ国高校生となる予定です。これについて、教頭先生にお話を伺うと「部活動の指導陣の充実や、他校に無い課外活動もありそれらが魅力となつて、地域に選択して頂いていると感じています」と話し、今後も地域に立脚しながら生徒たちとともに学校が成長していくべきいいとのことでした。

3月17日、上ノ国高校の入学試験合格者発表が行われ、この春高校生となる38名が、新たな学び舎の前で喜びを分かち合いました。上ノ国高校は、入学者の減少から、存続を危ぶまれていた時期もありましたが、近年は教育内容の充実のほか、保育所・小中校と連携しての自作教材の作成、古着を収集して難民支援活動を行うなど、学校の枠に収まらない積極性が、地域と近隣町の多くの中学生を惹き付けています。

